

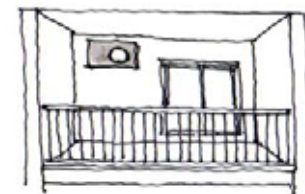
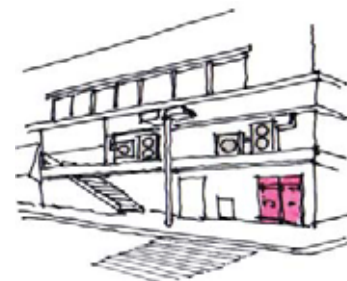
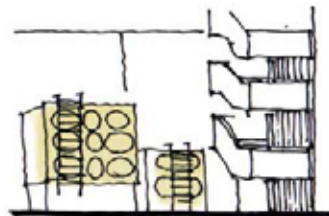
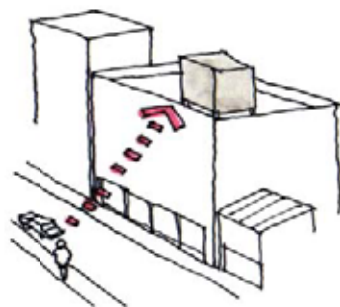
付帯設備・外構への配慮

建物本体の配置や規模の計画を進めていく中で、設備や外構の計画についても、合わせて検討していくことが望めます。

これらの計画は良好な景観を形成する上での重要な要素であり、まち並みへ大きな影響を及ぼす可能性があります。

建物本体のみが景観に配慮された計画であっても、設備や外構の計画に配慮がなければ、その効果は半減してしまいます。

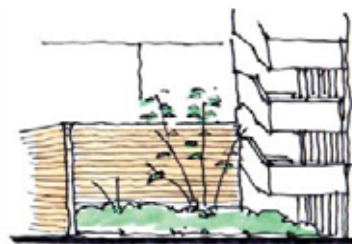
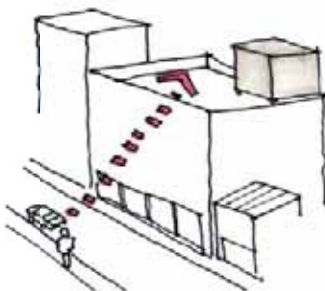
これらを配慮することにより、まち並み景観を良好にするだけでなく、建物本体の印象を良くする効果も望めます。



屋上・外壁に設置する設備(高架水槽・受水槽など)

高架水槽などの設備は、大きさや形に、ボリューム感や異質感があるため、突出した印象になりがちです。設置する位置を、道路などの公共空間から離すことにより、外部から見えにくくすることができます。

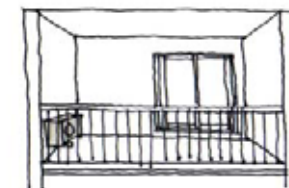
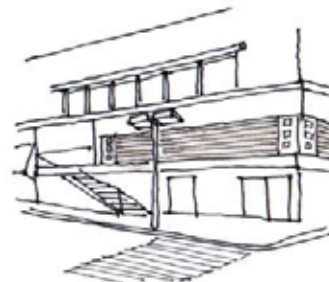
屋外に設置される設備は、ポンプやボイラーなど、素材や形状の異なる機器が必要になることが多く、煩雑な印象になりがちです。周辺と調和するような素材の目隠しや植栽を設置したり、外壁を立ち上げて隠したりすると、印象が良くなります。



屋上・外壁に設置する設備(空調機械など)

空調機械は、屋外に面し複数台の機器がならぶことが多く、様々な大きさや形、色彩でもあるため、煩雑な印象になりがちです。腰壁や垂れ壁の背面など外部から見えにくい場所への設置や、目隠しの設置、色を合わせるなど、建物と一体的な外観とする配慮が必要です。

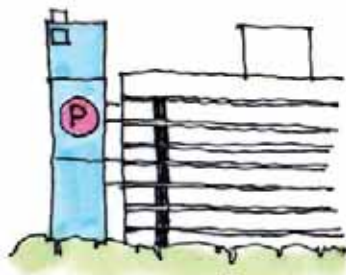
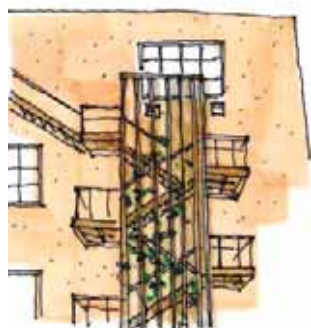
マンションなどに個々に設置する際は、目立たなくなるよう、手すりの背面に向きを工夫して設置するのも効果的です。このように、設備機器の設置では、その位置や向き、形状や色彩を統一することなどで、印象が変わります。





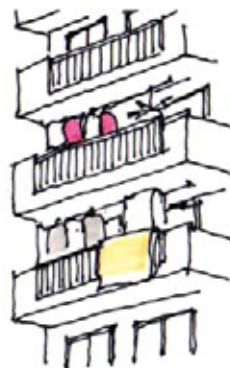
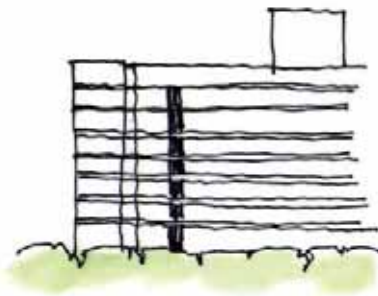
屋外階段

屋外階段は、その機能や建物本体との開放性の違いなどから異質なデザインとなりがちで、突出した印象を与えます。仕上材や色彩を建物本体の外壁とそろえるなど、一体的な外観となるよう配慮することが望まれます。



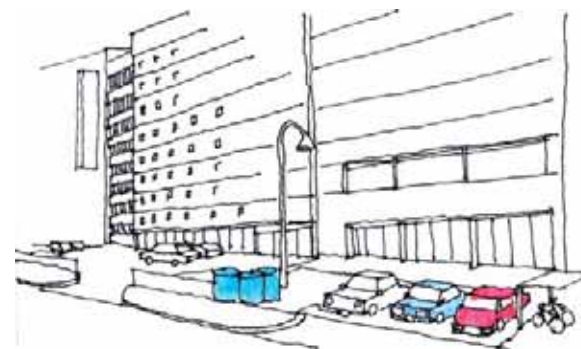
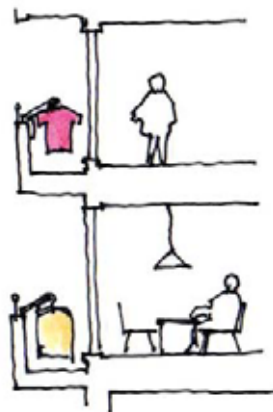
立体駐車施設

立体駐車施設は、大きく単調なデザインとなることが多く、まち並みに対して突出した印象を与えます。建物本体と材質や高さ、色彩やサインの位置などをそろえると、一体的な印象にすることができます。



物干し場・物干し設備

洗濯物や布団を干す行為は、日常生活に欠かせませんが、様々な形や色がならんだ様子は、煩雑な印象を与えます。物干し場を外から見にくい位置にしたり、物干し設備を手すりの内側に設置したりして、目立たないようにしましょう。



駐車場・付属施設(ゴミ置場・倉庫など)

駐車場やゴミ置場などの付属施設は、道路沿いに配置されやすく、材質や形の違いなどから煩雑な印象になりがちです。特に、道路に面して直接車がならぶ、いわゆる「ハーモニカ式駐車場」は、安全上も景観上も望ましくありません。

車の出入口の幅は最小限にとどめ、駐車場などの付属施設をなるべく道路から見えにくい場所に配置しましょう。道路と駐車場の間に植栽帯を設けたり、付属施設のデザインをそろえたりして、落ち着いた外部空間を築きましょう。

